

概要報告

実施期日	8月1日(木)
部会名	小学校 図画工作部会

神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

研究テーマ

つくりだす喜びを感じられる図画工作～個別最適化を目指した造形遊びをする活動～

提案概要

入学したばかりの1年生。多くの子が図工を楽しく取り組んでいる一方、「絵なんか描きたくない」「どうせ下手だし」と描くことが辛い時間になってしまっている児童が一部いた。理想とギャップがあるのか？これまでの経験が乏しいのか？発達に課題があるのでは？と見て取れる。“課題のある児童も含めて全ての児童に図工の楽しさを感じさせたい”という思いから、「すべての児童が、安全・安心な環境の中で、図画工作の活動を通して、満足感を感じ、自己肯定感を高められるような授業を目指して」造形遊びの授業改善に取り組んだ実践。

○研究授業1 7月「ソルティペインティング」

指先や体の感覚を使い、個人の力量に左右されない課題であるため安心感をもって活動することができると思い、授業を行った。導入は動画で説明を行い、見通しをもてるようにした。

→見本にあるような模様を一人ひとりで作る時間となってしまう、創造性に欠けてしまった。対話的な活動が(する必要がないために)なかった。つくりだす喜びを感じさせることができなかった。

この授業から、①友達と相談し共有できる、対話的な活動を意識させること。②指導の個別化を意識して、自己決定できる機会を増やし、主体的に活動させるようにすること。③造形的な遊びについて調べて研究し、「つくりだす喜び」を感じさせられるような授業を行うこと等が課題として見えた。

○研究授業2 11月「秋の造形遊び」

たくさんのおまつぼっくりやモール、紙コップなどを使って表し方を工夫して造形遊びに楽しく取り組む授業。導入では、どんぐりころころの歌をみんなで歌い、授業者渾身のまつぼっくりシャワーで子どもたちの楽しそうだな、わくわくするな、という気持ちをめいっぱい引き出したことで、題材への興味・関心を高めることができた。

→造形的な遊びを楽しみ、対話的な活動があった。一方で造形遊びではなく、紙コップやボンドなどで工作を楽しむように活動が変化し、イメージがわからない子、苦手な子が苦しい時間となってしまった(めあてがぶれてしまった)。

この授業から、①導入で大切なことは派手な演出ではなくめあてを確実に伝えること。②めあてを確認する時間をつくること。③作品を評価するのではなく、めあてに沿った評価をすること。④題材はシンプルなものに絞ること。⑤指導の個別化を行い、子どもが自信をもって活動できるようにすること。が課題として見えた。

○研究授業3 3月「力を合わせてピンチ君」

洗濯バサミのみを題材とした造形遊びをする活動の授業。造形的な視点を知識としてめあてでおさえ、授業中も子どもへ評価の言葉として返していった。はじめは1人に3～5個の洗濯バサミを渡して材に目を向けさせた。その後もっと数が欲しくなった子どもたちは自然と周りとは協力したり相談したりする姿が見られ、対話的な活動へと変化を見せる。めあてをもう一度確認したのち、机を下げて広い場所で3000個もの洗濯バサミを使って活動を広げた。

→苦手だった子も主体的に生き生きと活動する姿が見られた。指導の個別化を進めたことで児童が自己選択をし、自分のやりたいことを追求していった。その過程から自己肯定感を高めていったことが見て取れた。友達との対話を通して、造形的な視点や興味・関心の幅の広がりを感じ、学習の個性化も実現できた。

質疑応答

特になし

協議の柱及び協議概要

『個別の支援が必要な児童への手立て』

○小中の校種が混ざった5～6人のグループで協議を実施。図工に対して困難さを抱える架空の児童1名の特徴と、「6年間の思い出の校舎を絵の具で絵に表す」題材の授業の概要について例示し、その子への手立てを①導入の工夫、②ことばがけ、③目指したい姿に分けて話し合った。

- ・有名な画家の一見下手に見える絵が高額で取引されている絵を見せ、上手に描くことが全てではないということを導入で伝える。
- ・事前に制作する時期、内容、上級生が描いたものなど予告をする。
- ・前向きにやる気にさせたい。少しでもやってみるかという気にさせたい。好きなサッカーボールを大きく描いて、本来の題材である景色は小さめに背景として描く事を紹介する。
- ・「何が楽しかったか」だと、楽しくなかった思い出があふれてくることもあるので、「何が好きか」という自分と向き合う時間にする。
- ・本人がどこまで求めているのか、本人が達成感をどこで感じているのかを個別でのやり取りで見極め、うまく描きたい気持ちがある場合は、うまく描かせられるようにすることも必要。
- ・友達にシュートをしている様子をタブレット等で動画で撮ってもらい、動画と静止画と合わせて活用することもできる。ルーズ、アップなどトリミングして構図を考える事も可能。
- ・小さいころからの積み重ねが乏しい児童の場合、造形遊びをする活動やアートカードでの鑑賞などでいろいろな言葉を習得させていく。

まとめ概要

- ・図画工作が苦手な児童に対して造形遊びをする活動を迫及していく発想がとてもよかった。
- ・小中合同で事例の児童に対して話し合いができ、異校種の実態についても聞くことができたのでよかったと意見が多くあった。